

# Dōshin

日本のおもちの魅力



JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

## 架け橋

異なる国の人々同士による共感を高めるには、アート表現を通して自国の文化を伝える、という方法がある。この場合におけるアート表現は一種の普遍語であり、相手に外国や未知の世界をよりよく知る機会を与える。

このような出会いから、人間の多様性を認識し、尊重することができ、絆や尊敬の念を築きやすく、また理解、受け入れがしやすくなる。つまりアートは、よりバランスの取れた異文化間の対話を促す非常に効果的なツールなのである。

これを踏まえて子供の世界を考えると、異文化を身近に感じる最適な手段はおもちゃなのではないだろうか。遊ぶという行為は身体能力と認知能力の発達に不可欠であるとされており、何よりも子供たちの社会的共生の基盤である。したがって、異なる文化のおもちゃ展示は、子供たちが一人前の人間としてのアイデンティティを形成し始める時期に重要である親しみを感じさせる刺激になると言えるだろう。

『童心：日本のおもちゃの魅力』展は、日本の家庭や店でよく見かける現代のおもちゃを紹介する。展示スペースのほか、子供たちが実際に遊べるエリアも設けられている。

今回の展示は、ジャパン・ハウス サンパウロを訪れるブラジルの子供たちが、地理的に遠く離れていながらも日本の子供たちの世界を垣間見ることができれば、という願いから実現した。子供たちは、自分たちが日常的に親しんでいる遊びやおもちゃを再認識したり、初めて見るものや興味のあるテーマを見つける機会を得たりすることで、日本の同世代の子供たちにより親近感を覚えることであろう。

二か国のおもちゃ文化を比べる「間違い探し」(実際は同じ部分の多い)ゲームのように、違いと類似点が明らかになり、両国の幼少期に繋がりがあることを想像できるようになる。

「童心」という言葉は「子供心」を意味し、「童心に帰る」とは子供の頃の気持ちに帰ることである。私たちの願いは『童心：日本のおもちゃの魅力』展が、大人も子供も大いに楽しめる展示になることである。

ナターシャ・バルザーギ・ジーネン  
本展キュレーター兼  
ジャパン・ハウスサンパウロ企画局長

#DoshinNaJHSP  
#BrinquedosNaJHSP



**プラレール**  
**発売年：1959年**  
**メーカー：タカラトミー**

1959年にプラレールの原型「プラスチック汽車・レールセット」発売。オールプラスチックで、最初は架空の汽車がモデルで、手で転がして遊ぶものだった。1964年に東海道新幹線「ひかり」登場に合わせ、初めて実在の車両をモチーフとした製品（手転がし）が登場し、現在は日本の鉄道車両を軸に、キャラクターを採用した鉄道や架空の鉄道なども商品化している。累計販売数は1億8,200万個以上の日本を代表するレールトイ。毎年、様々な楽しい仕掛けを加えた新製品が登場。

**リカちゃん**  
**発売年：1967年**  
**メーカー：タカラトミー**

リカちゃんの初代は1967年発売。1967年当時、サイズが大きく外国人がモデルのお人形が売り場のメインだった中、日本の住宅に見合った大きさのドールハウスと、それに合うサイズの独自の着せ替え人形として初代のリカちゃん人形が開発された。日本の子どもたちがより身近に感じられるように、氏名・性格・小学生という設定などが細かく決められ、人形自体は子どもの手の平の中に収まる大きさ（約21cm）になった。また当時流行していた少女漫画のヒロインのようなはかなげな表情や、日本人とフランス人の両親をもつという当時の憧れの設定が採用された。日本で圧倒的な人気を誇る着せ替え人形で、ドレスやメイクアップ、ヘアアレンジやおままごとなどが楽しめる多彩な商品が発売されている。



**トミカ**  
**発売年：1970年**  
**メーカー：タカラトミー**

ミニカーといえば外国車や1/43サイズなどの大型モデルが中心だった1970年にトミカは誕生した。国産車で子どもの手のひらサイズ、というまったく新しいコンセプトで、手のひらに乗せた時にクルマらしい感覚を感じてもらうために素材はダイキャストを使用して作られ、塗装は本物と同じような焼き付け塗装が実施された。昨年末現在で累計1,100種以上の車種が発売され、累計販売台数が7億1,000万台を突破。親子3世代に愛される日本を代表するおもちゃの一つで、商品ラインナップも多彩。



**オセロ**  
発売年：1973年  
メーカー：タカラトミー

1973年に日本で生まれた頭脳対戦ゲーム。自分の色の石で相手の色の石をはさみ、はさんだ石を自分の色にひっくり返す。それを交互に繰り返し、最終的に自分の色の石が多い方が勝ちとなるゲーム。『ルールを覚えるには一分、極めるには一生』と言われるシンプルかつ奥深いゲーム。日本オセロ連盟という組織があり、国内の主要大会としては「全日本選手権」「名人戦」「王座戦」が行われている。そのほかにも小学生日本一決定戦となる「オセロ小学生グランプリ」も開催されている。また各ブロック(地域別)でも定期的に大会を開催している。



**モンチッチ**  
発売年：1974年  
メーカー：セキグチ

「モンチッチ」は1974年にセキグチより発売された。人種の壁を越えて世界で愛されるために動物をモチーフとしたぬいぐるみを考え、モンチッチの原型となる「くたくたモンキー」が生まれた。その弟分として生まれたのがモンチッチ。かわいらしいネーミングは、フランス語の「モン」(“わたしの”という意味)と「プチ」(“小さく可愛いもの”という意味)でわたしのカワイイもの、またモンキーのモンとおしゃぶりをいつもチュウチュウと吸っているので「モンチッチ」という名前がつけられた。体はぬいぐるみ、顔と手足はソフビの人形で、当時は新しい人形と言われ爆発的ブームを起こし、その翌年から輸出も行われ世界中で人気になった。

**黒ひげ危機一発**  
発売年：1975年  
メーカー：タカラトミー

1975年に発売され、世界47の国・地域で累計出荷数1,500万個を超えるロングセラー商品(21年10月現在)。ひとりずつ順番にタルの穴に剣を刺し、タルの中の「黒ひげ人形」を飛び出させた人が負け。誰が「黒ひげ人形」を飛ばすかをハラハラドキドキしながら、コミュニケーションが取れるゲーム。



**せんせい**  
発売年：1977年  
メーカー：タカラトミー

1977年から発売されている磁気お絵描きボード。「手や床も汚れない」「安全に遊べる」「何度でも描いて消せるから経済的」に加え、磁石を使用したペンやスタンプの面白さや、思いのまま自由に思いっきり描けることで子どもの感性を磨き、心の成長を促すことなどから、これまで多くの親子から支持されている。



**チョコロQ**  
発売年：1980年  
メーカー：タカラトミー

“チョコロチョコロ走るキュートなクルマ”をキャッチコピーに、1979年に誕生し、1980年に発売。プルバックゼンマイで走る俊敏な動力性と、デフォルメされたコンパクトでキュートなボディデザイン。これまでに累計約3,000種を発売、約1億5,000万個以上を出荷。2022年夏に電動でプログラミング走行も楽しめる進化したチョコロQを発売。

**シルバニアファミリー**  
発売年：1985年  
メーカー：エポック社

1985年から発売されている「シルバニアファミリー」は、ショコラウサギファミリーをはじめとした動物のキャラクターたちが送る、やさしく夢あふれる暮らしを表現したドールハウスのシリーズ。1987年以降、海外での展開をはじめ世界中で人気なブランド。世界70以上の国と地域で販売されている。日本ではテーマパークやレストランも展開。

はじめてのシルバニアファミリーや赤い屋根の大きなお家をはじめとした村での暮らしを再現できる「ベーシックシリーズ」や、人気の赤ちゃん人形を主体としたゆうえんちシリーズの主力商品「ゆめいるマーメイドキャッスル」は様々な仕掛けがあり、赤ちゃんたちを使って多彩な遊び方が楽しめる。



### メルちゃん

発売年：1992年

メーカー：パイロットコーポレーション

1992年に誕生した「メルちゃん」。お風呂に入ると髪の色がピンクになるお人形で、温度が変わるとインキの色が変化する「メタモカラー」の技術が髪の毛に応用されている。だっこしたり、ミルクを飲ませてあげたり、おねんねさせたり、一緒にお風呂に入ったり、お世話ごっこを通して思いやりの心を育む。長く愛され続けている理由は「かわいい」の一言に尽きる。ファッションドールのような憧れではなく、子どもが母親の立場を疑似体験し、思わずお世話したくなる存在。メルちゃんが子どもにとってかわいい存在であることが大きなポイントになっている。



©BANDAI

### たまごっち

発売年：1996年

メーカー：バンダイ

「たまごっち」は1996年に発売されたデジタル携帯ペットで、2004年には赤外線通信機能が付いた「かえってきた!たまごっちプラス」、2008年には液晶画面がカラー化された「たまごっちプラスカラー」、2018年にはスマートフォンアプリと連携可能な「たまごっちみーつ」を発売。発売当初はデジタルペットを育てることが当時は斬新だったこと、本当のペットのように真剣に育てなければならぬリアリティが、大人にも人気になった要因。さらに赤外線通信やカラー液晶、ウェアラブル型のタッチ液晶など時代に合わせて機能が進化してきたことも魅力。

### アクアビーズ

発売年：2004年

メーカー：エポック社

「アクアビーズ」は水でくっつくふしぎなビーズ。イラストシートに合わせてビーズをならべてきりふきで水をかけ、かわくとビーズがくっついてかたまり、色々な作品を作ることができる。平面だけでなく、工夫次第で立体作品や大型作品といったアレンジも可能。様々な色と形のビーズで色彩豊かなクリエイションを楽しめる。



### ホイップる

発売年：2008年

メーカー：エポック社

「ホイップる」は、パティシエ練習用に開発された特殊なクリーム「ホイップるクリーム」で本物そっくりのスイーツ作品が作れる玩具シリーズ。できあがった作品は、乾燥させると保存できるので、お部屋に飾ったり、アクセサリーとして身につけたりできる。





**ナノブロック**  
発売年:2008年  
メーカー:カワダ

2008年に日本で誕生した超ミニサイズの世界最小級ブロックで最小部品は4×4×5mmの極小サイズ。手のひらサイズの動物から巨大な船や古城まで、すべてブロックで再現できるのが最大の特徴で、日本初の世界遺産となった姫路城や、沖縄の首里城、盆栽などの日本ならではのモチーフや恐竜など様々なラインナップが魅力のブロック玩具。

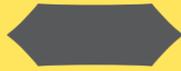
**新幹線変形ロボ シンカリオン**  
発売年:2015年  
メーカー:タカラトミー

2015年に誕生した新幹線がロボットに変形するキャラクター。2018年からはアニメ化され、子ども達の人気を博している。「シンカリオンZ アルファエックス」、「シンカリオンZ E5ヤマノテ」はそれぞれ新幹線からロボットに変形し、アニメと同じように再現して楽しむことができます。



**お米のおもちゃ(ピープル)**  
発売年:2010年  
メーカー:ピープル

何でも口に入れてなめる赤ちゃんに安心な「お米のおもちゃ」は日本産のお米が原料で、製造も日本でおこなわれている。塗料も使用されておらず安心して乳幼児に持たせて遊ばせることができる。



JAPAN HOUSE

---

SÃO PAULO